○議長（川﨑和夫君）　３番　吉川孝弘君。

○３番（吉川孝弘君）　３番議員、吉川です。私のほうからは、通告どおり、６次産業化の取り組みについて質問させていただきます。

舟橋村は山や海がなく、農業が盛んな村であり、農作物は９４．７％と高い割合を占めております。しかしながら、村の農業従事者は年々減少傾向にあり、新たな若い人材が取り組みやすい産業が求められています。

そのような中で、平成２４年度から６次産業化が進められていて、本村でもブランド米や米の原材料でのお酒造りなどに成果が出て、ますますの改革が求められております。

６次産業は、生産、加工、販売、観光等を一体化したアグリビジネスの展開やイノベーションを起こし付加価値を向上させる事業であり、さらなる農業改革を期待できるものです。また、加工や販売を手がけることによって、１年間を通じて仕事ができることも魅力の一つであります。

舟橋村でも６次産業化を実現化していくためには、付加価値の向上を目標として、生産・加工・販売の一体化や新商品、新サービス開発などの取り組みが必要ではないでしょうか。

舟橋村の農業を活性化してくれる人たちにもっと６次産業をＰＲして、舟橋村の豊かな大地で育った資源を使い、新しい産業を創出・育成してくれる人材づくりも大切であります。

今までの村での取り組みの事案や今後の構想など、あったらお聞かせください。

○議長（川﨑和夫君）　生活環境課長　吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君）　３番吉川議員の６次産業化の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

ご存じのとおり、農業の６次産業化とは、１次産業としての農産物の生産業に加え、２次産業としての加工業、３次産業としての販売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図ることで、成長産業へつなぐ農業環境基盤の拡充を図るものであります。

６次産業化の背景といたしましては、それぞれの地域には、さまざまな農林水産物や農業経営にかかわる経験、伝統文化が存在するといった資源があるものの、農業生産物の出荷額の推移や農家所得の低下といった現状を踏まえて、生産から加工、販売を一体化するとともに、異業種への参入から付加価値を創出し、雇用の確保や所得の向上により農業の再生と活性化を目指しているものでございます。

これまで本村の農業は、稲作が中心であり、転作作物として大麦等が作付されてきたところですが、近年では6次産業化への参入が増えております。

舟橋駅のテナントで営業しておりますＣＯＣＯＣＨＩは、富山県の補助金を受け、「お※食堂」をオープンしております。また、森崎開発は、本村の支援を受け、トマト水耕栽培や加工等の取り組みを行っております。さらに、昨年では、ＣＯＣＯＣＨＩ、森崎開発とレタス工場オーナーの北陸機材の連携により、次の事業が実施されております。

１つは、昨年6月にトマトやレタスの収穫体験を実施いたしました。小学生等の子どもと保護者がそれぞれで収穫を行い、実際に食することで商品のＰＲを行いました。その評価として、参加した方からは、楽しく参加できた。村で育てられた新鮮な食材を知ることができ、購入したいなどの声を聞くことができたことでございます。

もう一つは、ことし1月にレタスとトマトのほか、村内産の野菜を使った料理教室が開催されました。当初の見込み人数を上回る２０名の参加者がありまして、男性の方や若い主婦の方々の交流を深めるとともに、村内産食材への関心を高めていただいたところでございます。

３１年度におきましても、これらの事業の継続に加え、森崎開発のトマト等の商品開発、販路拡大に支援してまいります。また、これまで週数回の直販をしてまいりましたふれあい農園では、料理教室の開催や外部団体との連携事業を実施することで、6次産業化を一層推進してまいります。

なお、料理教室では、今年度のような講師による指導型で実施するのではなく、参加者が自ら講師となり企画・実施することで、地域における参加者自身の役割や居場所づくりにもつなげていくことを期待しているものであります。

さらには、農業法人等の経営者の方やエイジレス世代を対象とした農産物の栽培講座などの取り組みを実施することで、6次産業化や村全体の農業の底上げを実施していくことを申し上げまして、答弁といたします。